

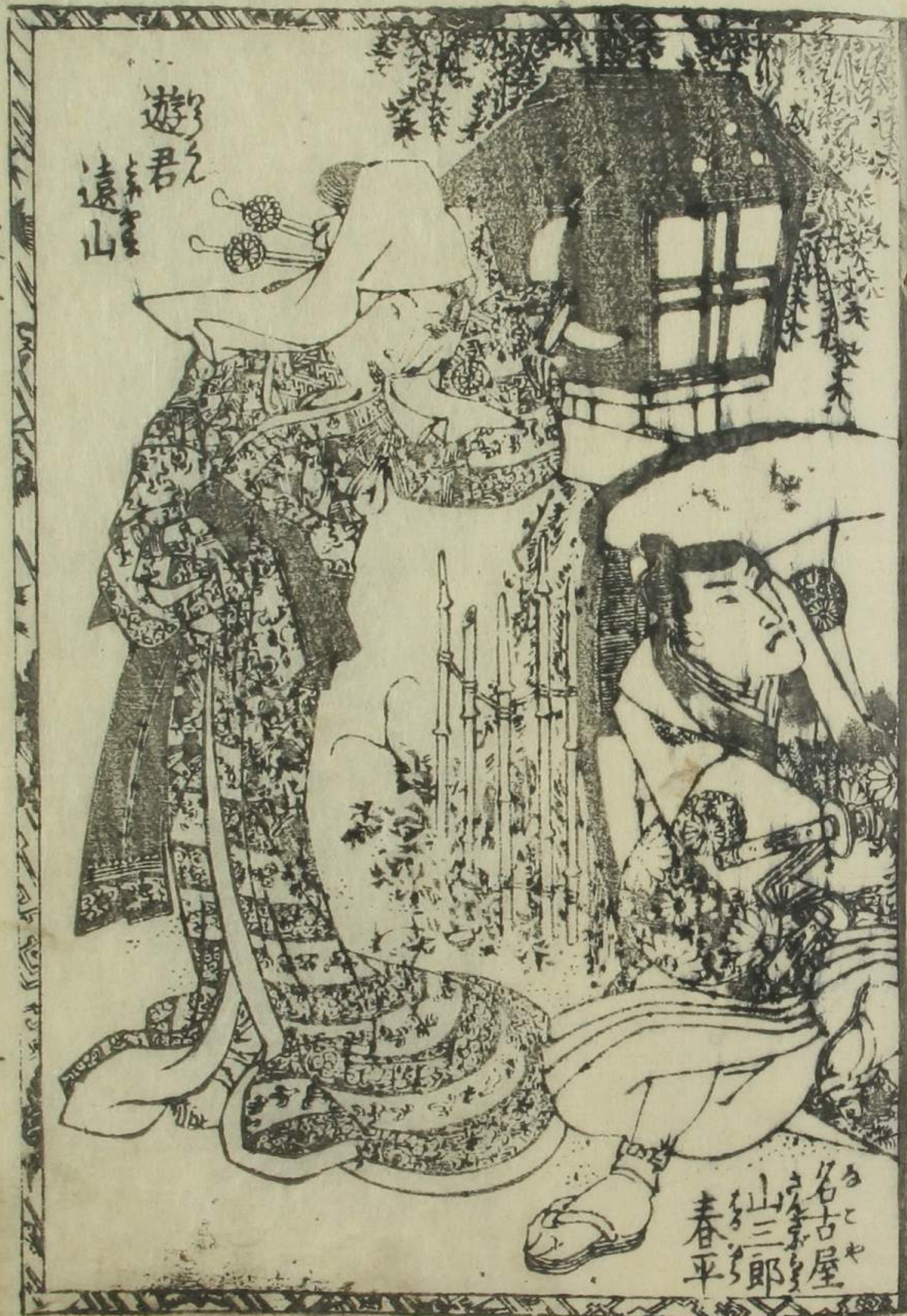
遠 2378 147 符

天保十三年重工貞重所負身見

重工貞重ぬ。稗史の始筆を。予が拙作を其師杏蝶楼主人より託せらる。そを二十餘年前彼主人の始筆の家翁があつて居る。吃の又平名画の助及といふ草子あり。甚せお行れる。佳例あれをあり。予も亦主人より旧識の金を断の文あれを固辞さる。これと思案の著述るを。看官のこころを捧腹の種時三馬倉卒お脱稿。さあつた稿本を。まあ先年の縁義を賀ひて。世界にかあ。浮世又平。名画の與言を。こりか鳴く。東お名たる諸先生おついで。まする名取。仲。花房。長き。藤。岡屋。青。願。強。き。る。あ。の。の。と。氣。性。外。へ。い。や。と。と。面。白。き。二。画。組。の。画。工。が。智。利。也。と。あ。り。の。こ。ろ。と。稿。成。一。二。冊。割。り。初。集。の。四。冊。を。寅。の。春。より。世。發。行。さ。る。行。末。永。く。時。花。歌。川。流。れ。絶。せ。ぬ。左。袒。を。と。鈴。あ。ら。あ。ら。取。硯。を。あ。ら。し。舞。扇。お。か。さ。る。筆。を。し。り。負。重。ぬ。の。初。舞。臺。お。紹。介。の。口。序。を。述。ぶ。

壬寅孟陽 式亭小三馬

定



第十



廿



這曲者の  
本名ハ後々の巻み何り

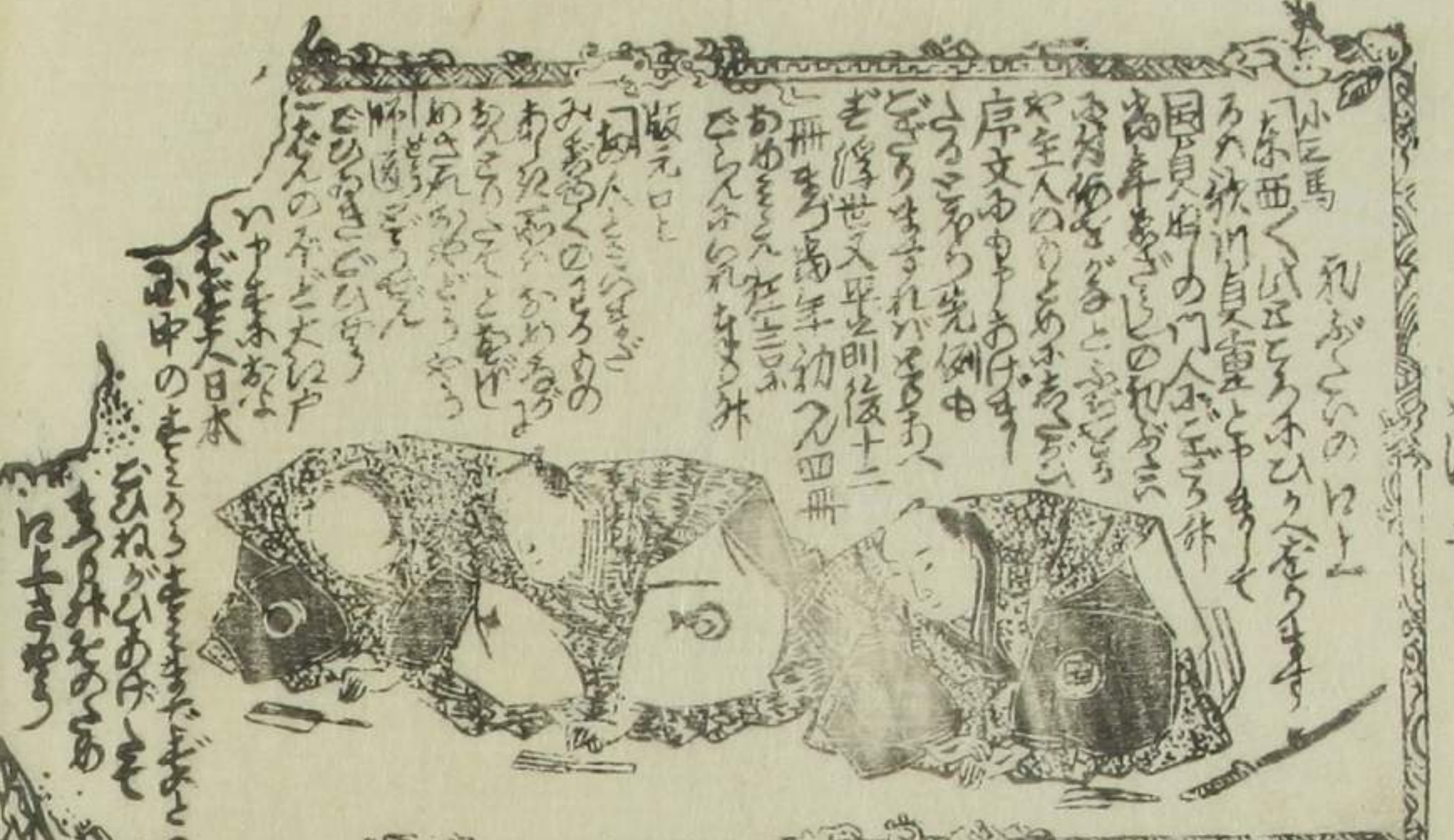
山三郎坊  
葛城



犬上轉物宗廣



長太郎の雲





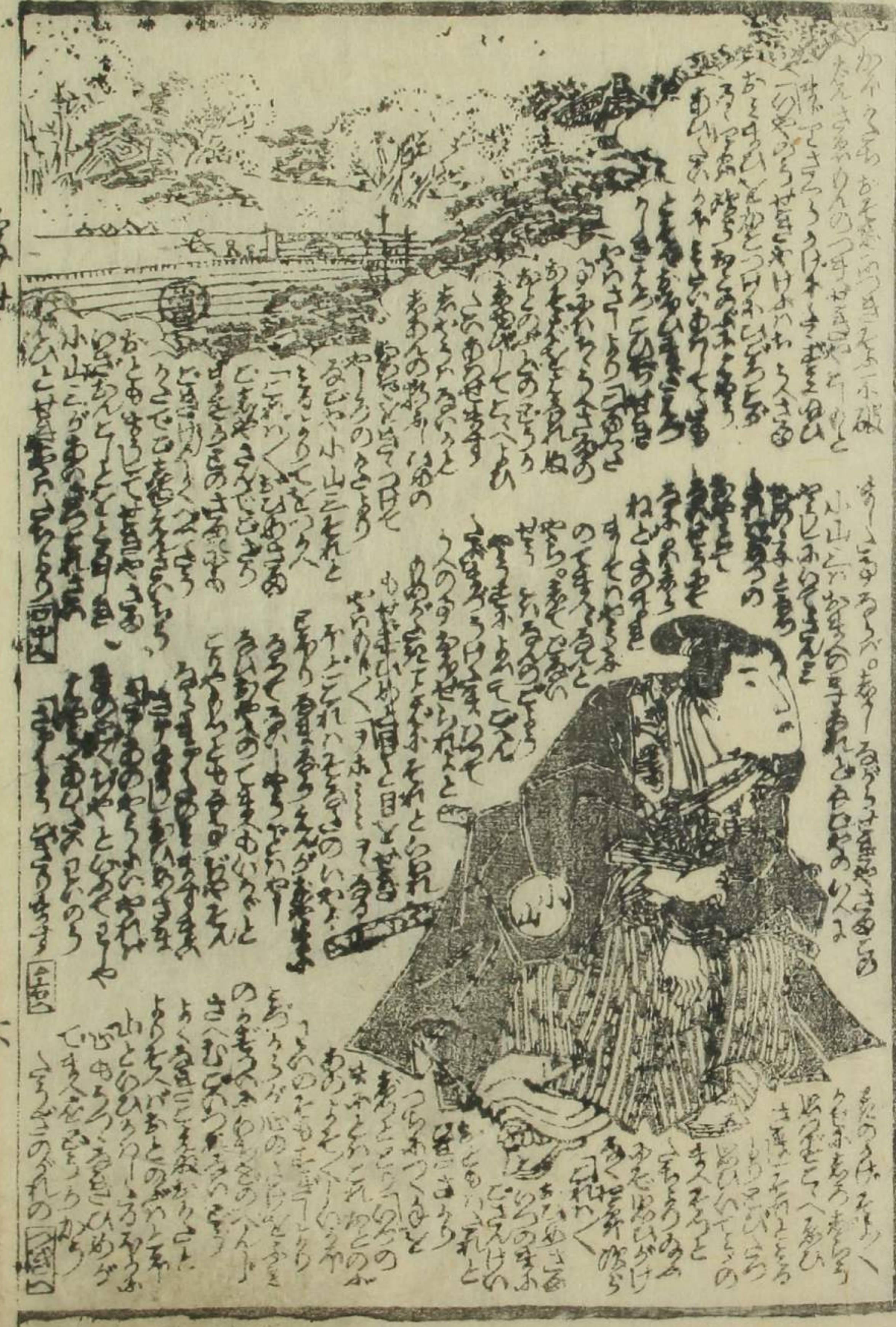
あまのこころを  
おもひながら  
あまのこころを  
おもひながら  
あまのこころを  
おもひながら

あまのこころを  
おもひながら  
あまのこころを  
おもひながら  
あまのこころを  
おもひながら

あまのこころを  
おもひながら  
あまのこころを  
おもひながら  
あまのこころを  
おもひながら



あまのこころを  
おもひながら  
あまのこころを  
おもひながら  
あまのこころを  
おもひながら



世

五







赤松満祐のひまわりをたむけたりと  
おさなりしをあらあそびをたむけたりと  
まゝにふりかへてあらあそびをたむけたりと

かむくど阿古菟らちの居着らげ  
ついで入



おとろひのさかちをちやくしやくと  
おとろひのさかちをちやくしやくと  
おとろひのさかちをちやくしやくと

のり  
おとろひのさかちをちやくしやくと  
おとろひのさかちをちやくしやくと  
おとろひのさかちをちやくしやくと



かこのころけりてをけりてをけりて  
かこのころけりてをけりてをけりて  
かこのころけりてをけりてをけりて

かこのころけりてをけりてをけりて  
かこのころけりてをけりてをけりて  
かこのころけりてをけりてをけりて

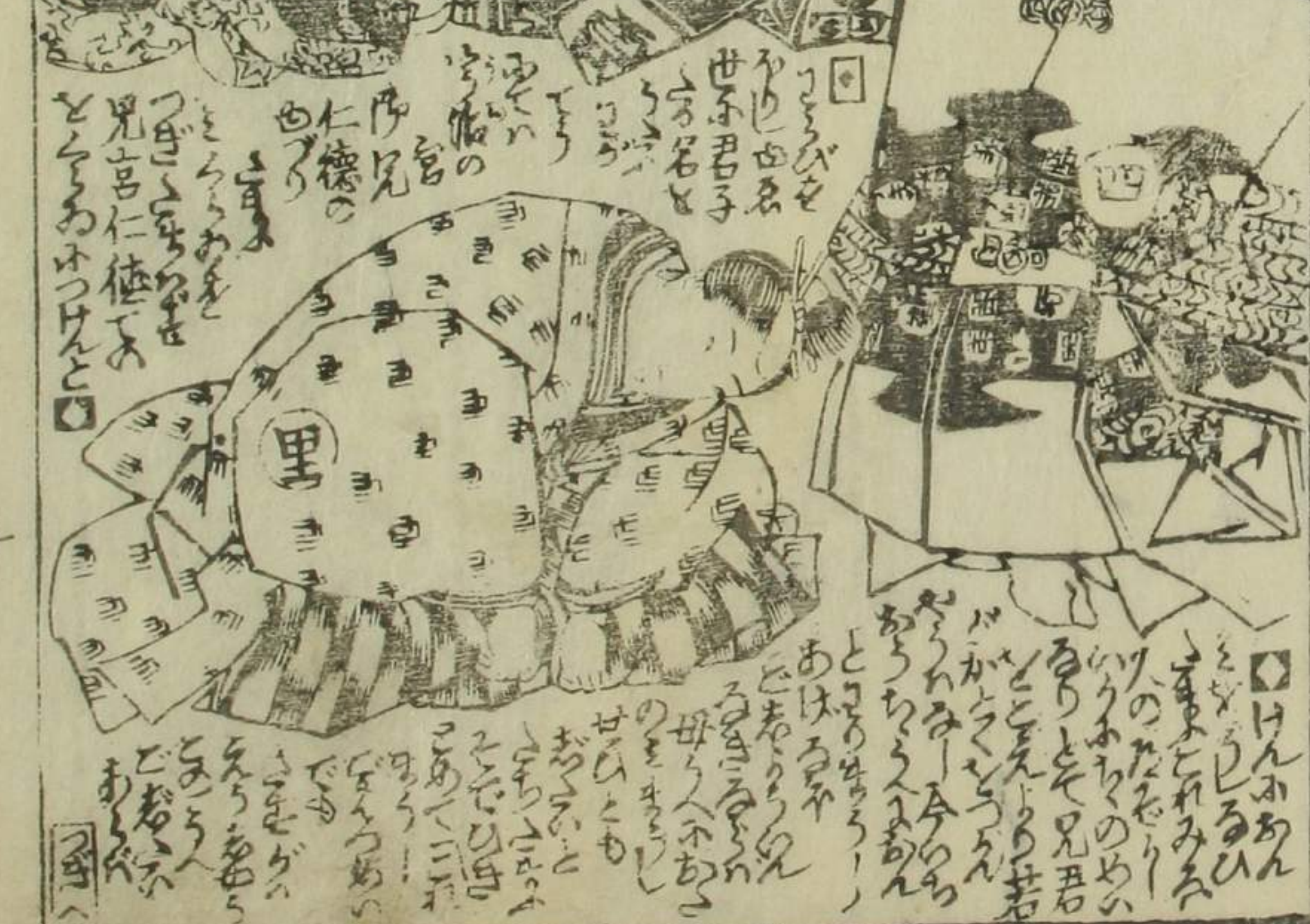


〇板元口上  
 本家加茂金沢文海堂刊  
 仙人參丹 一割代二友  
 曲物入一奴引  
 大人を物おひあつ  
 るはそく功あつ小兒  
 結痛おひつる好  
 此藥は古今より名  
 やくは仙方秘傳の由  
 ありはあきしめて  
 湯薬小方より一切  
 小兒中一より一切  
 るひのやせと引き  
 結痛おひつる好  
 小兒の結痛をう  
 かりありてと  
 主人つひの結痛  
 小兒の結痛をう  
 かりありてと  
 主人つひの結痛

〇板元口上  
 本家加茂金沢文海堂刊  
 仙人參丹 一割代二友  
 曲物入一奴引  
 大人を物おひあつ  
 るはそく功あつ小兒  
 結痛おひつる好  
 此藥は古今より名  
 やくは仙方秘傳の由  
 ありはあきしめて  
 湯薬小方より一切  
 小兒中一より一切  
 るひのやせと引き  
 結痛おひつる好  
 小兒の結痛をう  
 かりありてと  
 主人つひの結痛



〇板元口上  
 本家加茂金沢文海堂刊  
 仙人參丹 一割代二友  
 曲物入一奴引  
 大人を物おひあつ  
 るはそく功あつ小兒  
 結痛おひつる好  
 此藥は古今より名  
 やくは仙方秘傳の由  
 ありはあきしめて  
 湯薬小方より一切  
 小兒中一より一切  
 るひのやせと引き  
 結痛おひつる好  
 小兒の結痛をう  
 かりありてと  
 主人つひの結痛



〇板元口上  
 本家加茂金沢文海堂刊  
 仙人參丹 一割代二友  
 曲物入一奴引  
 大人を物おひあつ  
 るはそく功あつ小兒  
 結痛おひつる好  
 此藥は古今より名  
 やくは仙方秘傳の由  
 ありはあきしめて  
 湯薬小方より一切  
 小兒中一より一切  
 るひのやせと引き  
 結痛おひつる好  
 小兒の結痛をう  
 かりありてと  
 主人つひの結痛







この山にやうやくのこころ  
さらあはれけりやうやくの  
とちちのこころをのこころ  
ふのこころをのこころ

山にやうやくのこころ  
さらあはれけりやうやくの  
とちちのこころをのこころ  
ふのこころをのこころ



この山にやうやくのこころ  
さらあはれけりやうやくの  
とちちのこころをのこころ  
ふのこころをのこころ

山にやうやくのこころ  
さらあはれけりやうやくの  
とちちのこころをのこころ  
ふのこころをのこころ





つれづれと見よ 白くも夜もあんと  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あひのさゆかきとどきあそびの  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを

うき世とてあはれあはれ  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを



あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを

あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを

あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを  
あふくさるるのうらみのむすろを







大  
 里  
 雲  
 峯

右の者もさういふ...  
 左の者もさういふ...  
 ...

〇坂元はナ  
 ...  
 美穂仙女香  
 ...  
 黒油美香  
 ...  
 坂本氏製

山  
 大  
 山

右の者もさういふ...  
 ...

...



〇下  
 〇上  
 〇中  
 〇左  
 〇右  
 〇前  
 〇後  
 〇上  
 〇下  
 〇中  
 〇左  
 〇右  
 〇前  
 〇後



〇下  
 〇上  
 〇中  
 〇左  
 〇右  
 〇前  
 〇後  
 〇上  
 〇下  
 〇中  
 〇左  
 〇右  
 〇前  
 〇後

〇下  
 〇上  
 〇中  
 〇左  
 〇右  
 〇前  
 〇後  
 〇上  
 〇下  
 〇中  
 〇左  
 〇右  
 〇前  
 〇後



〇下  
 〇上  
 〇中  
 〇左  
 〇右  
 〇前  
 〇後  
 〇上  
 〇下  
 〇中  
 〇左  
 〇右  
 〇前  
 〇後



小三馬作  
貞重画



これより  
 貞重画  
 小三馬作  
 貞重画  
 小三馬作  
 貞重画  
 小三馬作  
 貞重画  
 小三馬作  
 貞重画  
 小三馬作

定

